



特集

「故郷」再研究

巻頭
エッセイ

言葉とつきあう
西川美和

教師力
講座

甲斐先生の
授業アイデア集

書写

教えて！
墨のこと

板書の文字， 気になったことはありませんか？

板書している最中、「あれっ、この漢字の筆順はこれでよかったのかな」などと気になったことはありませんか。気になる筆順や点画・字形の書き方は常にチェックしておきたいものです。本書は、国語科書写の教科書に掲載されている、点画の書き方、筆順、字形のポイント、行書の書き方などをふまえ、これらがひと目でわかるように編集されています。書写の指導資料としてはもちろんのこと、毎時の授業における板書文字のチェックには最強の味方になってくれるはずです。（宮澤正明／山梨大学教授）

好評発売中！

新・字形と筆順

光村図書の書写ハンドブックの決定版！
21年続くロングセラーが、リニューアルして登場
新常用漢字（2136字）にも書き文字で対応

委	医	圉	位	衣	以	暗	案	安	压	惡	愛
委	医	圉	位	衣	以	暗	案	安	压	惡	愛
委	医	圉	位	衣	以	暗	案	安	压	惡	愛
委	医	圉	位	衣	以	暗	案	安	压	惡	愛
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

- 光村図書「書写」教科書編集委員による手書きの文字
 - 教科書体活字に即した書きぶり
 - 全文字に間違えやすい部分に配慮した筆順分解を提示
 - 日常に役立つ、毛筆楷書、硬筆楷書、硬筆行書の3種を提示
 - 字形のポイント、許容についての図示
- ☆付録として「筆順チェックシート」も！

宮澤正明 編
定価 本体1,800円＋税
360ページ 四六判
ISBN978-4-89528-679-4



光村図書

中学校 国語教育相談室 通巻No.160 2014(平成26)年9月8日発行
発行人＝常田 寛 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝株式会社 加藤文明社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」に則り、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報誌の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

ルンちゃん・シュンちゃん

早稲田大学教授 森山卓郎

翻訳ってすごいと思う。素人の私はあこがれる。翻訳では、原作の意味と雰囲気を保存しつつ、わかりやすく訳すという超人的な力が発揮されるのだ。英語の「yes」の訳だつて、「うん」「ええ」「はい」「はっ」といろいろある。

魯迅の「故郷」の場合、原作は中国語だ。中国語には日本語のような敬語がない。竹内好訳では、少年時代のルントウは「今は寒いけどな、夏になったら、おいらとこへ来るといいや」のように普通体で話す。これが、再会の場面では「これが五番目の子でございます」となる。敬語表現が両者の間の壁を浮き立たせる。一方、一九三三年の井上紅梅訳では、同じ箇所が「今は寒くていけません、夏になったらわたしの処へいらつしやい」となっている。ルントウ少年は敬語で話すのだ。「旦那様」と呼ばれた後の部分は、竹内訳では「悲しむべき厚い壁が、二

人の間を隔ててしまったのを感じた」となっている。その現場で隔たったようなニュアンスもある。二〇〇九年の藤井省三訳では「二人のあいだはすでに悲しい厚い壁で隔てられているのだ」となっている。原文の「已經（すでに）」という言葉を反映して、隔てられている状態がすでに成立しているという訳だ。さらに、もしこの部分を「すでに隔てられていたのだ」とすると、そのことに改めて気づくような感じになる。

「十一、二歳の少年」であるルントウと「まだ十歳そこそこ」の主人公。しかし、原文では再会の場面でのルントウは「閨土哥（ルントウ兄ちゃん）」と呼びかけられていて、ルントウが年上のようだ。竹内訳では「ルンちゃん」だが、藤井訳では「閨兄ちゃん」。ちなみに井上訳では「閨土さん」。また、主人公の子ども時代の呼ばれ方（迅

哥儿）は、竹内訳と井上訳では「シュンちゃん」だが、藤井訳では「迅坊っちゃん」。母が昔のように、と言う呼び方だが、留学生に聞くと、この表現には親しみのほか、「坊っちゃん」という感じの軽い敬意もあるという。どう訳すかで、子ども時代での身分差の認識が違ってくる。作品世界は微妙に変わる。

表される内容と表現形式の対応にはさまざまな可能性がある。翻訳ではないが「走れメロス」も「走らんかいメロス」（そう言いたくなる？）という題名だったら作品の雰囲気は違う。「故郷」だつて「ふるさと」とすれば「鬼追いしゅ」の連想で違ったニュアンスになる。翻訳でも創作でも、言語表現の世界は実に奥深いのだ。ね、ルンちゃん！ シュンちゃん！

CONTENTS

探検！言葉の森24 ルンちゃん・シュンちゃん ————— 森山卓郎

巻頭エッセイ 言葉と向き合う 02 言葉とつきあう ————— 西川美和

特集 04 「故郷」再研究

インタビュー 翻訳者から見た「故郷」 ————— 藤井省三

「故郷」さまざまなアプローチ ————— 宗我部義則

教師力講座 最終回 14 甲斐先生の授業アイデア集 ————— 甲斐利恵子

書写の用具研究 2 20 教えて！ 墨のこと ————— 墨運堂

言葉と つきあう

映画監督

西川美和

私は、失言の多い人間です。
「言って良いことと、悪いことがある」というフレーズがありますが、幼い頃から、その「言って悪いこと」のほうを、ぼろり、ぼろりとこぼしてしまいう性分で、私の母親は「あなたの言葉は、ひとを傷つける凶器になる」と、たいへん危惧していました。

しかし「書き言葉」というものを覚えてから、その不用意さ、無防備さが多少緩和されていったように思います。脳みその中で発生した電気信号をすぐ真下の口からつると喋るより、少し距離のある指先のほうから黙って綴り出すくらいが、いくぶんか「寝かされて」「配慮のある」ものが上がる感じがするのです。文字として記録されると、自分がうつかり放つ「言って悪いこと」も少しは客観性をもって眺められ、なぜ自分がそれを発するのか、発さずにはおれないのかを考えて、それを人にどう伝えるかも吟味することが出来ます。

ひとの書くものにも興味を持つようになりしました。小説などの世界では、楽しい冒険や美しい恋愛と同じくらい、人

間に内在する闇や毒もまた花形の主題です。一般的には「言って悪いこと」でも、書き手の腕次第で笑えるものにもなるし、孤立していた心に寄り添うものにもなりうるということを、強く実感しました。もしも「読む」とか「書く」という行為がなければ、私の中から発生する「言って悪いこと」は内部でぶすぶすと煙を上げ、自家中毒に陥っていたかもしれせん。次第に、私にとっては「書くこと」がイコール「考えること」になっていきました。ペンや鉛筆を持って、初めて自分が何を考えているかわかってくるんです。ちょうど中学に入った頃から始まっ

た習慣だと思います。

その頃は、どこかで読み齧った言葉をすぐに真似して使っていました。漱石を読めば「私は」が「余は」となり、太宰を読めば「こひを、しちやつたんだもの」と。そんな中学生の文章ってありますか。真新しいスニーカーや、ハイブランドのバッグを中学生が身につけている感じだと思います。ちぐはぐで、いい気になっているのは本人だけ。今でこそ、そんな自分もなかなかいいじましいですが、当時は一週間もすると顔から火が出そうなほど恥ずかしくなって、ぐちゃぐちゃに丸めて捨てていました。だけど、そういう背伸びをする中で、何がほんとうに自分の気に入ったスニーカーなのか、バッグなのかの取捨選択がなされていくものです。ちゃんと自分の生活の用途に合わせ、好きだと思ったものを大事に使い込んでいくと、いつのまにか珍しい言葉や古い言葉でも、そのひとのものになると思えます。そして、その言葉はそのまま「そのひとらしさ」になっていきます。

使う言葉こそがその人物、と言っても良いと思います。ひとは、何を見て、ど

んな環境で育ち、誰とつき合ってきたか。そういうものが、語彙や語り口に表れます。帰国子女の人は、日本語の言葉遣いの中にもその特徴がにじみ出ます。地方出身者が使う標準語と、東京育ちの人が話す東京弁は違います。趣味の多い人、少ない人、家庭のある人、一人暮らしの人、些細でも、必ず使う言葉の中に特徴がちりばめられます。脚本を書くときには、台詞の上でキャラクターを書き分けるわけですが、一つの作品の中でも、二人として同じ言葉遣いの人間は出てきません。兄弟でも、夫婦でも、生きる場所や思考によって、言葉に差異を持たせる。そのように書くことで、脚本を渡された俳優たちは自分に与えられた役の人物のキャラクターを掴むのです。

私は、映画監督に弟子入りしましたが、コミュニケーション能力に不安もあるし、やっぱりひとり書斎で仕事のできる脚本家になろうと思った頃がありました。ひっそり日陰に居ても、脚本の中に魅力的な世界を作り、魅力的な人物を出せば、きつとお金を出す人も出て来て、力になって

くれるスタッフや、俳優も見つかると思っただけです。監督をやるようになってからも、自分の企画の魅力を話し言葉で伝えきる自信がないので、映画に関わってくれる人一人一人の心を掴むためのラブレターだと思って、脚本を書いていきます。ラブレターは、相手を落とすためのものですから、決してひとりよがりではないけません。この物語と人生を共にしたら、絶対に楽しくなる、この物語には、絶対に自分が必要だ、この物語を逃したら、絶対に後悔する——受け取った相手にそう思い込ませようと、私は台詞の一言一句、ト書きの一言一句に心血を注ぐので

西川美和
にしかわ みわ

1974年広島県生まれ。早稲田大学在学中に是枝裕和監督作「ワンダフルライフ」にスタッフとして参加。2002年「蛇イチゴ」でオリジナル脚本・監督デビュー。06年公開の「ゆれる」で一躍脚光を浴び、09年公開の「ディア・ドクター」では、日本アカデミー賞最優秀脚本賞など数々の賞を受賞。著書に「きのうの神さま」(ポプラ社)、「映画にまつわるXについて」(実業之日本社)など。

写真：篠塚ようこ

す。そこに綴る言葉は、もう私自身を解放するためのものではなく、これを読む「誰か」のための言葉なのだ、と思っただきから、私は自分がプロになれた気がしました。——と、それらしい策士のようなことを書きましたが、本音を打ち明けると、その恋に恋をしているのは、やっぱり私自身にほかならないのです。自分が勝手に思いつき、しつこく温めたかなしい片思いの相手になってくれる仲間がほしくて、しゃかりきに権謀術数(けんぼうじゆすう)を巡らせ、錬金術を学び、机にかじりついているのにすぎません。

なぜ言葉があるのか。当たり前ですが、それは他者とわかり合い、交わるためです。誰ともわかり合えない閉ざされた気持ち、誰をたつたひとり帳面に書きなぐって、解放してくれるのも言葉ですが、他者に伝えたいという意志が起ったときに初めて、言葉は磨かれていきます。一人でこもって思索しているように見えて、人間はその思索の言葉の先に届かぬ他者を夢見ているのです。結局のところ、世界に他者がなければ、言葉もないということではないのでしょうか。

「故郷」 再研究

教科書に長く掲載され、
多くの人に親しまれている「故郷」。
本特集では、

「故郷」を翻訳された先生にお話を伺ったり、
さまざまな授業実践を紹介したりする中で、
これまでとは違った視点で、
この作品の魅力をもひも解いていきたいと思います。

翻訳者から見た「故郷」

●インタビュー

東京大学教授・中国文学者

藤井省三

五年前に「故郷」の新訳を発表した藤井省三先生は、魯迅をはじめ中国文学の研究者として広く活躍されています。今回のインタビューでは、教科書に掲載されている竹内好訳の特徴や、藤井先生が翻訳するときに心がけたこと、作品としての「故郷」の魅力などについて伺いました。

「歯切れのよい」竹内訳

——教科書では、竹内好（一九一〇—一九七七）が訳した「故郷」を掲載しています。「故郷」はこれまでにいろいろな方によって翻訳されていますが、その中でも、竹内訳が広く親しまれている理由はどこにあるのでしょうか。

これまで、佐藤春夫など二十人近くが「故郷」を翻訳してきました（※1）。その中でも、竹内さんの翻訳が多くの人に読まれている理由の一つに、読み手にとつての「わかりやすさ」が挙げられると思います。

魯迅の文章には一文がとても長いという特徴があり、そのまま日本語に訳そうとすると難解なものになってしまうんです。そのため竹内さんは、原文にある長い一文をいくつもの短文に置き換えています。原文と比べて数倍の句点「。」を使い、歯切れのよい文章にしたんです。ですから、中学生の子どもたちにもわかりやすく、読みやすいと思います。

竹内さんは、「魯迅の思想のすばらしさをどうわかりやすく伝えるか」に重きを置いて翻訳していた人です。そのため、「魯迅の文体」というよりも、論理的でわかり



写真：鈴木俊介

やすい「竹内好の文体」になっていると、私は感じます。

翻訳するときに心がけたこと

——藤井先生が翻訳するときは、「魯迅の文体」を伝えることに注力したそうですね。

魯迅は、明治・大正時代の日本文学や十九・二十世紀のヨーロッパ文学を非常によく勉強していて、芸術性の高い文章を書いていきます。私は、その文体の魅力を十分に伝えたいと思いました。先ほども述べましたが、魯迅の文体は、長文による迷路のような思考表現を特徴としています。

例えば、「故郷」の、語り手が思い悩む最後の場面（三年教科書P121L3～7）。竹内さんは「～願わない。～願わない。～願わない。」と、句点で三つに区切って歯切れのよい明快な文章にしています（右下参照）。しかし、原文のこの部分は、長い一文になっています。「願わない。」と言い切る事ができず、「願わないけれど、それでうまくいくのだろうか……」という、語り手の迷いが、そこに表れているともいえます。ですから、私は「望まないし、～望まない、～望まない。」と、読点でつなぎ、語

品を持ち帰ります。また、語り手とルントウは、少年時代からすでに平等な友人関係ではなく、それが二十年後の「旦那様……。」という言葉によって、さらに顕在化したといえるでしょう。

魯迅は「シュン坊ちゃん」という呼称により、裕福な家に育った語り手の未熟さを示したかったのではないかと、私は考えています。ですから、語り手の一人称に、「私」でなく、少年性を匂わせる「僕」という言葉を担当しました。

広がる「故郷」の読み

——異なる翻訳を読むことで、「故郷」の読みが広がりますね。竹内好も生前自身の訳が国語教科書に掲載されていることについて、「教材として利用される国語の先生は、（中略）できるだけ多数の訳文を彼我対照して、それらを参考にしながら自分の解釈をお決めになるのが賢明だと思う」と述べていたようです（※2）。

そもそも、藤井先生が「故郷」を翻訳しようと思ったきっかけは何だったのでしょうか。

私と「故郷」との最初の出会いは、やはり竹内訳でした。小学校五年生のときだっ

【竹内訳】

彼らが一つ心でいたがために、私のように、むだの積み重ねで魂をすり減らす生活を共にすることは願わない。また、ルントウのように、打ちひしがれて心が麻痺する生活を共にすることも願わない。また、他の人のように、やけを起こして野放図に走る生活を共にすることも願わない。

【藤井訳】

彼らが仲間同士でありたいがために、僕のように苦しいあまりのたうちまわって生きることを望まないし、彼らがルントウのように苦しいあまり無感覚になつて生きることも望まず、そして彼らが他の人のように苦しいあまり身勝手に生きることも望まない。

り手の苦悩を伝えるように訳しました。

魯迅の文章は、登場人物が悩んだり迷ったりするところで、どんな文が長くなつていくのが特徴です。ですから、翻訳するにあたり、どんなに長い文章でも句点は動かさないことを心がけました。中国語と日本語では文法構造が違うので難しい部分もありましたが、句点を増やさず、ダツシュ（一）で言葉をつなぐなどの工夫をして、魯迅の文体を崩さないようにしたつもりです。

——藤井先生の訳を読むと、竹内訳よりも登場人物の身分差がはつきりと描かれてい

るのが印象的です。例えば藤井先生の訳では、ヤンおばさんや少年時代のルントウは、語り手を「シュン坊ちゃん」と呼んでいますね。

竹内訳では「シュンちゃん」としていますが、原文は、「迅哥儿」となっています。魯迅は夏目漱石の『坊っちゃん』を『哥儿』と中国語に訳したのですが、『哥儿』と呼ぶ側と呼ばれる側には、親近感と身分差が存在しています。ですから、私は「シュン坊ちゃん」としました。

ヤンおばさんは「シュン坊ちゃん」と呼ぶことで旧来の身分差を示唆し、堂々と物

たのですが、とても感動しまして、読書感想文の題材に選んだほどです（笑）。それから、魯迅作品に強く惹かれ、中学・高校と、竹内訳を繰り返し読んでいました。しかし、大学で中国文学を専攻し、原文で読むようになってからは、翻訳を読むことは

ほとんどなくなりました。そして十四年前、中学・高校の国語研究会の先生方から『故郷』について講演をしてほしい」と頼まれたんです。そこで、国語の先生方の前で「中国で『故郷』がどのように読まれているか」などをお話しし

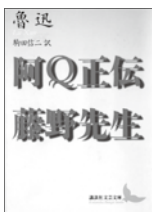


魯迅の文体の魅力を十分に伝えたい——
そんな思いから翻訳を志しました。





『故郷／阿Q正伝』
(光文社古典新訳文庫)
藤井省三 訳



『阿Q正伝 藤野先生』
(講談社文芸文庫)
駒田信二 訳



『呐喊』
(中公文庫)
高橋和巳 訳



『阿Q正伝』
(角川文庫)
増田渉 訳

僕は厳しい寒さのなか、二千里も遠く、二十年も離れていた故郷へと帰っていく。季節はもう真冬で、故郷へと近づくにつれ、空もどんよりと曇り、寒風が船内に吹き込み、ヒューヒューと音を立てるので、苫の隙間から外を見ると、どんよりした空の下、遠近にわびしい集落が幾つか広がっており、まったく生気がない。僕は心の内の悲しみに耐えねばならなかった。

わたしは厳しい寒さの中を、二千余里も遠くから、二十余年間も別れていた故郷へ帰っていった。季節はもう真冬で、故郷へと近づくにつれて天気もわるくなり、冷たい風が船舱の中へ吹き込んできて、ヒューヒューと鳴った。篷の隙間から外を眺めると、暗く黄色っぽい空の下に、わびしい寒村があららこちらに横たわっていて、何の活気もなく、わたしは心の中にいたましさのこみあがつてくるのをどうしようもなかった。

私は厳しい寒さをおかして、二千余里をへだて、二十余年間無沙汰をしていた故郷へ、私は帰った。季節は真冬、故郷に近づくにつれて、天気もくずれ、冷たい風が船舱に吹き込んで、ウウと鳴った。篷の隙間から望むと、灰黄色の空の下、あらここにさびしげな村々が横たわり、なんの活気もない。とどめえずして私の心に悲哀が起る。

私は厳しい寒さを冒して、二千余里も隔った、別れて二十何年になる故郷に帰った。時はもう冬の最中だ、だんだん故郷に近づくにつれて、空模様は暗く曇ってきて、冷たい風が船舱に吹き込み、ウーウーと鳴る。篷の隙間から外をながめると、蒼く黄ばんだ空の下に、遠く近く幾つもさびしそうな寒村が横たわっていて、一点の活気もない。私の心は悲しく、うそ寒くなつてくるのを禁じ得なかった。

さまざまな翻訳にふれる

「故郷」を翻訳した書籍は絶版になってしまったものも多いが、次に挙げる四冊は古書店等で比較的手に入りやすい。それぞれの「故郷」の冒頭部分を抜粋したので、比較して読みたい。

「故郷」の世界を広げる

悩み、迷うことの多い人生で、「故郷」は道しるべになってくれると思います。

「故郷」の魅力とは

「故郷」が教科書に掲載されて、約五十年が経ちます。藤井先生は、この作品を、生徒たちにどのように読んでほしいと

考えたのか、講演後の質疑応答で、「竹内好はどうしてこのように訳しているのか」という、翻訳についての質問が実に多かったことです。そこから、私は「故郷」の翻訳を改めて読み直しました。そして、魯迅の研究者として、さまざまな疑問を感じ、原文に近い翻訳をしたいと思うようになったのです。そのような経緯があつて発行されたのが、新訳『故郷／阿Q正伝』（光文社古典新訳文庫）です。中学校の現場の先生方から「質問をいただいたことがきっかけとなって、生まれた新訳といえます。」「故郷」を教える先生方には、授業の参考に、比べて読んでいただけたらうれしく思います。

考えていますか。中学三年生になると、高校受験を控え、徐々に社会の厳しさに直面していきます。そんなときに「故郷」を読んで、「迷つてもいいんだ」ということを感じてほしいですね。何事も順調に進むわけではなく、迷つたり悩んだりする中で人は成長していくんだということを、この作品から読み取ってほしい。それは、きっとその後の人生にも生きていくはずですよ。

それに、「故郷」は世代によってさまざまな読み方ができる作品でもあります。大人になってから読むと、また違った感じ方ができることでしょう。中学生の段階では、社会の貧困の問題や、最後の「希望」の部分に着目して読むと思います。しかし、大人になると、希望について述べる語り手に対して批判的に読むなど、もっと複雑な読み方ができる。それは魯迅が、多様な読みができるよう、巧みに文章を構成しているからです。



ふじい・しょうぞう

一九五二年東京都生まれ。東京大学大学院博士課程修了。東京大学文学部教授。現代中国文学者。一九九一年魯迅研究により文学博士。二〇〇五年より日本学会会員。著書に「魯迅「故郷」の読書史」（創文社）など。訳書も多数。

※1 作家の佐藤春夫（一八九二―一九六四年）をはじめ、中国文学者の高橋和巳（一九三一―一九七一年）など、戦前から数えと二十名ほどが翻訳している。そのうち、現在でも翻訳を読むことができるのは十名ほど。

※2 「教科通信」（教育出版）一九六九年十月一日号に「故郷」の訳者として」という一文で、竹内好が自身の翻訳について述べている。

魯迅が「故郷」を書いたのは四十歳のときです。作家として円熟してきた頃ですが、混沌を深める中華民国の状況に苦悩するいつぼう、私生活でもさまざまな問題を抱えていて、人生に絶望を感じていました。その悩みや迷いを、円熟した芸術性で見事に描き切ったのが「故郷」です。

私は、研究者として迷いを感じるたびに魯迅の作品を読み、救われてきました。悩み迷うことの多い人生で、この作品は、生徒たちにとつても、きっと道しるべになってくれることでしょう。

魯迅を訪ねる

東北大学史料館 魯迅記念展示室

魯迅は二十三歳のとき、仙台医学専門学校（現在の東北大学）に入学した。当時の貴重な資料から、魯迅の学生生活を垣間見ることができらるだろう。

■アクセス：仙台駅からバスで十分。東北大学片平キャンパス内。

■開館時間：十時～十七時

■休館日：……土曜・日曜及び祝日

■入館料：……無料



「故郷」とまどまなアプローチ

お茶の水女子大学附属中学校教諭
宗我部 義則

「故郷」は、教えるたびに新しい発見があります」と話す宗我部先生は、これまでにいろいろな切り口で実践をされています。今回はその中から、一部をご紹介します。

「故郷」について、「教えるのが難しい」「内容が重苦しくて、あまり好きになれない」などの声を耳にすることがあります。確かに、テーマが重いと感じるかもしれません。私が、私はこれほど、さまざまな切り口で授業ができる教材はないと思っています。「故郷」は、一つ一つの表現がすばらしく、文章自体に力があります。また、作品の構造もしっかりしているのです。どこを取り上げて、深い読みにつなげていくことができます。

この教材では、かつて美しかった故郷の変貌や、「旦那様！……。」とルントウが言う前と後の、語り手の気持ちの変化などを、読み取ってほしいと考えています。そのあたりをしつかり押さえつつ、生徒たちが自分なりに作品を解釈し、言葉で意味づけしていけるような切り口を示してあげたいものです。

* * *

月が出てくる場面を比較する

この作品には、月が出てくる場面が二回あります。一つ目は、少年時代のルントウとの思い出を振り返る回想シーン。二つ目は、希望について語る最後のシーンです。この二つの場面を比較させることで、深い読みにつなげていくことができます。

月のシーンが二回出てくることには、多くの生徒が気づきます。しかし、とすれば「同じシーンが二回出てくる」と思っている子も多い。そこで、教師が「本当に同じシーンなんだろうか」と揺さぶりをかけることが大事です。すると、生徒たちは次々と、二つの場面の違いを挙げていきます。

・回想シーンでは、「緑色のすいか畑」、最後のシーンでは「緑の砂地」と表現している。

色彩表現に着目する

月を場面を比較させるとき、生徒たちの反応を見ながら、色彩表現にも着目させるとよいと思います。例えば、「金色」という言葉からイメージを広げていくと、生徒たちからは「金色は希望の象徴なのではないか」「いや、輝かしい過去の象徴だろう」「いや、未来の象徴なんじゃないか」と、ここでも議論が始まります。

また、この作品の色彩に関わる言葉に傍線を引かせていくと、回想シーンにだけ、「きらきら光る銀の首輪」「ランペイ(藍背)」「五色の貝殻」と、鮮やかな色彩表現があることがわかります。そこから、「語り手の思い出の中にだけ、『美しい故郷』がある」ということに、生徒たちは気づいていきます。色彩に着目させることで、その表現に込められた意味を身体感覚で感じることができるのです。

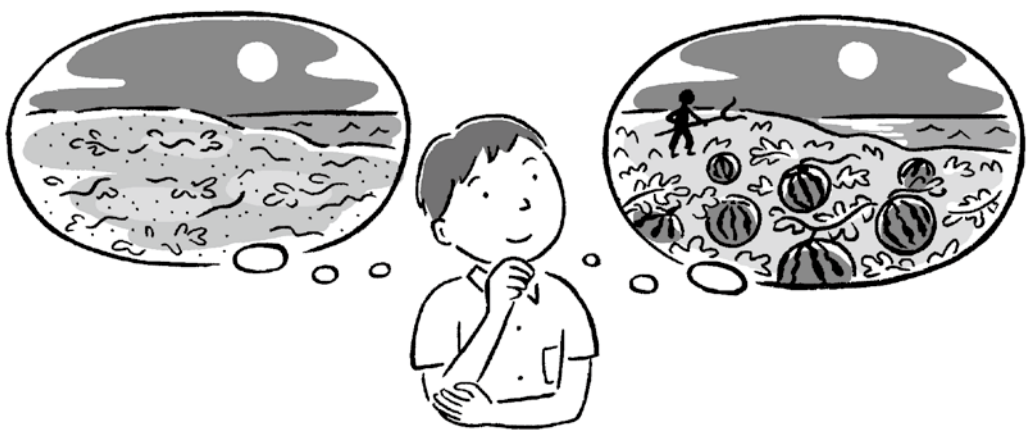
「旦那様！……。」の読み方を考える

生徒たちにとって、この作品でいちばん印象的なのは、やはり、ルントウが「旦那様！……。」と言う場面でしょう。

私は、三年教科書P116L9の「ああ、ルンちゃん——よく来たね……。」と、「旦那様！……。」の二つの会話の言葉をどう読むか、グループごとに考え、朗読させるという学習をすることがあります。上手に朗読することが目的ではなく、「どんな思いをどう表現するか」を大事にしている学習です。

作品の中で、「旦那様！……。」と言われた語り手「私」は、身震いし、言葉を失います。グループで朗読をさせる場合、ルントウ役を読み方が軽く感じられるときには、「語り手役が『よせよ、シюнちゃんていいよ』という言葉を返すようにさせます。すると、生徒たちは、相手が言葉を失うような読み方とは、いったいどういう読み方だろうと真剣に検討し始めます。

また、ルントウ役の読み方を聞いて、「自分だったらもっとゆっくり読む。なぜなら、このときのルントウには迷いがあるはずだから」などと、ルントウの気持ちも考えな



イラスト：田上千晶

がら、読み方を考えていきます。

ルントウ役が、低く静かな声で、ゆつくりと「旦那様！……。」と読むようになる

と、最初は、「よせよ、シユンちゃんはいよ」と言っていた語り手が、何も言えなくなり手。それは、語り手の追体験をしていることにもなると思います。



は『主従』になるのではないかと発言しました。すると、他の生徒たちから「もしかしたら、父とマンユエも、昔は友人関係だったのかもしれない」「じゃあ、ホンルとシユイシヨンも、将来は主従関係になつてしまうのかな」という発言が始め、同じことが三世代で繰り返されていくのではないかと……という議論に発展していきまし

た。そして、また別の生徒が「いや、三世代と言っているけど、私とホンルは親子関係ではない。同じことが繰り返されるように、そうではない展開があるという伏線ではないか」と発言し、議論は大いに盛り上がりました。

また、この関係図を見ると、「六番目の女の子」の存在も気になります。この人物について議論させると、「ルントウが、シユイシヨンとホンルを仲良くさせないために六番目の子を生きてきたのではないか」とか、「ルントウは自分たちと同じ思いをさせたくなかったんだ」「ルントウもつらい気持ちだったんだらうね」などという発言が出て議論が深まります。

人物関係図をつくる

小説には、必要のない人物は出てきません。少ししか登場しない人物でも、必ず何らかの役割をもっています。そのため、登場人物を整理して関係図をつくと、そこから作品全体の構造を捉えることができます。

生徒たちには、まず「故郷」に登場する人物を挙げさせます。私・ルントウ・母・父・ヤンおばさん・ホンル・シユイシヨン・マンユエ・六番目の女の子、の計九人が登場することを押さえた後、グループごとに話し合っ

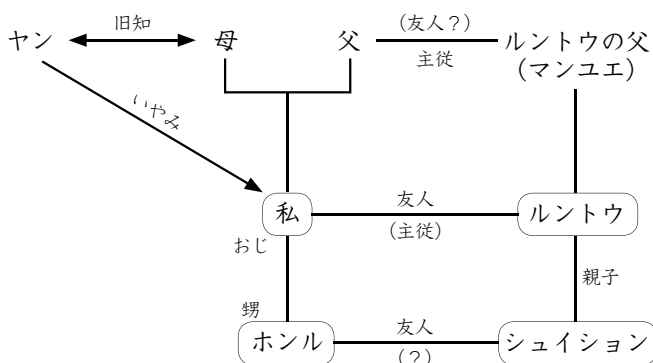
て、関係図をつくらせます。関係図をつくる前には、見本となるものを見せるとよいでしょう。人気のあるテレビドラマや映画のウェブサイトには、人物関係図が掲載されていることが多いので、そういう図を見せると、生徒たちはおもしろがって取り組みます。「世代の違いは上下で表す」「友人関係は横につないで表す」など、ある程度のルールを示してあげると、より取り組みやすいと思います。

下図は、あるグループがまとめたものです。この図を見て、他のグループの生徒が「私とルントウは、『友人』でなく、今

語り手の立場を変えて読む

「故郷」は、語り手「私」の一人称で語られている作品なので、多くの生徒は「私」に感情移入して読んでいきます。しかし、この作品を、ルントウの立場で読んで書き換えたり、三人称で書き換えたりすると、「私」を批評的に見るができます。

立場を変えて読むと、碗や皿を灰に埋めたのがルントウなのではと疑いの目が向けられたとき、どうして「私」はルントウをかばわなかったのか……と疑問をもったり、「心ひそかに彼のことを笑ったものだが」という、ルントウを少し見下したような表現があることに気づいたりします。そうすると、希望について語る最後の部分を、「私」が一人で勝手なことを言っているな」と感じる生徒が出てきます。ある生徒は「結局、『私』は、碗や皿をあげたこと以外ルントウにしてあげられたことは何もないのではないかと読みました。



▲生徒がつくった人物関係図

語り手の立場を変えると、ルントウ（当時の民衆）の思いや生活が浮かび上がることにもつながり、読みを深めたり広げたりできます。

私がこれまで行ってきた実践をいくつかご紹介いたしました。「故郷」はさまざまなアプローチができる魅力的な教材です。今までに何十回と教えていますが、生徒によつて読み方がさまざまで、いつも新しい発見があります。ぜひ、生徒たちがおもしろがって取り組むような切り口を探して、授業をしていただけたらと思います。

（談）

そがべ・よしのり

一九六二年埼玉県生まれ。お茶の水女子大学附属中学校教諭。お茶の水女子大学非常勤講師、国立教育政策研究所、教育課程実態調査問題（中学校国語）作成および分析委員を経て、平成二年生中中学校学習指導要領解説国語編作成協力者、光村図書中学校「国語」教科書編集委員を務める。



甲斐先生の授業アイデア集

東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子



本連載「教師力講座」がスタートして七年が経ち、今号で最終回を迎えることとなりました。

今回は、これまでご紹介した授業のアイデアの中で、毎日の授業にすぐ取り入れられそうなものを、ジャンルごとにピックアップしてご紹介します。

授業びらき

新学期の子どもたちは、輝くばかりの表情をしています。授業びらきでは、このやる気に満ちあふれた子どもたちの「伸びたい」という気持ちを大切にしたいものです。

自己紹介

最初の授業では、教師が自己紹介をすることが多いと思いますが、私は「国語の授業での自己紹介」という意識をもって行うようにしています。後で行う「名前の本」という単元（P15参照）を意識し、黒板に名前を書いて「二分で自己紹介をします」と言っておくように話します。

私の名前は、甲斐といいます。アサリとかシジミの貝ではありませんよ。やり甲斐があるとか、やった甲斐があったねというときの

甲斐です。
利恵子という名前は自分では「利益に恵まれる子」という意味だと思っていました。あるとき、母に尋ねてみたんです。
「利益に恵まれる子になってほしいと思っ
てつけたんだよね。お金持ちになってほしい
という意味でしょ？」と。そしたら母が言う
んです。「確かにそうだけど、ちょっと違う。
利益に恵まれる子にもなってはほしいけど、で
きれば利益を恵む子になってほしい。この人
に会えてよかったと、周りの人に思ってもら
える人になれるといいね」と。
みなさんが甲斐先生に出会えてよかったと
思える授業をしたいと思っています。よろし
くお願いします。

国語の授業では時間を決めて発表すること
が多くあります。これは、そのはじめの
一歩を踏み出すための、小さな学習です。
教師の言動はすべて教材になるということ
を意識して行いたいものです。

名前を材料にした学習

名前を覚えていない教師に、子どもたちが心を開くはずがありません。一日も早く名前を覚えるためにも、名前を材料にした小さな学習を行うとよいでしょう。

私は「名前の本」という単元をよく行います。漢和辞典で自分の名前に使われている漢字を調べさせ、ミニ本を作成して、一分間スピーチをさせるというものです。名前が平仮名だけの子どもや、外国籍の子どもには、「もし、漢字で書くとしたらどんな字がいい？」と聞いて調べさせます。

【美】みー ①うまい ②うるさい ③なつめ ④いじわる ⑤いじめる ⑥いじめる ⑦いじめる ⑧いじめる ⑨いじめる ⑩いじめる

意味(会意)羊と大とを合わせた字。
美は大きな羊。
肥えておいしい動物である羊、おいしい意味を表し、うつくしい、喜ぶの意味も。3

【熟語】美人…顔が美しい女。君主として、美妙…比べようもなく美しい。
美化…きれいにする。美しくする。

【幸】ゆきー ①さいごめ ②希望する ③さいごめ ④さいごめ ⑤さいごめ ⑥さいごめ ⑦さいごめ ⑧さいごめ ⑨さいごめ ⑩さいごめ

意味(会意)土と羊とを合わせた字。
土は天で若死にすること。羊は遊む、さかすこと。幸は若死にすること。不幸の逆、意味でいふ。

【熟語】幸先…よりこの前次。しあわせのまへ。幸運…よりめぐりあわせ。しあわせな運命。幸福…さいごめ。しあわせ。おめでた。

▲「名前の本」の生徒作品

ノート指導

新学期の新鮮な気持ちのときに、授業記録を取るこの大切さをしっかり理解させることが大事です。ノートは板書を写すだけでなく、メモを取ったりしながら、自分の学習の足跡を残すこと、学んだことをきちんと言葉にして、自分だけのノート作りをすることを伝えるようにしましょう。早い時期から丁寧に指導し、授業記録を習慣づけさせたいですね。

学習の予定

授業前の休み時間に、国語係が板書する。

授業記録

初めての記録なので、時間を多めに取って書かせた。「事実」「学んだこと」「感想」の三本柱。板書もここに記入する。

メモ欄

授業中に辞書を引いたり、調べたりした言葉があれば、ここにメモする。

最初なので、教師が評価項目を書いた。

日付と回数		No.
月 日		4/3
(1) 二授業記録を書く		1
辞典の早引き、暗唱、朗読をやりまし、朗読は書いたん の気持ちを考えて読むとい うことを知りました。私はあ まり辞書をつかわないのでこ れからたくさん使って早く引 けるようにしたい。はじめての授 業はいろいろなおもしろい かったです。		心算★何をする前 に知っておくべきこと。 のけ★最初のしんかん えつ★ 勝つ
授業記録 ・事実(具体的)△ ・初め知ったこと、学んだこと。 ・感想等×		大見心

▲授業びらきでノートの取り方を指導したときのノート

話すこと・聞くこと

「話すこと・聞くこと」の学習でいけば、
ん気をつけたいのは、活動の場面を設定する
だけでなく、何を学ぶのかを明確にして
取り組ませるということです。子どもたち
が、活動の中で何を学習するのか意識でき
るように工夫して指導したいものです。

■リハーサルの学習

私は、子どもたちに発表をさせる場合、
必ずリハーサルの時間を確保するようにし
ています。そうすることで、子どもたちが
発表を具体的にイメージでき、この学習で
何が大切なのかを自覚することができら
れます。

私はまず、一斉に発表の練習をさせます。
自分の発表内容が、実際にどのくらいの時
間を要するのかを体感し、内容をブラッ
シアップさせるためです。教師が「残り
〇秒」と声をかけて、時間を意識させると
よいでしょう。また、机間指導をし、発表
内容の再検討について、助言をするよう
にしましょう。

一斉に練習をした後は、ペアを組んでリ

書くこと

書くことに苦手意識をもつ子どもは少な
くありません。日常的にさまざまな小さな
「書く」学習を行い、書くことに対して抵
抗をなくしていくことが大事だと考えます。
子どもたちが「書きたい」という気持ちに
なるような学習をご紹介します。

■「言葉の小劇場」

「言葉の小劇場」は、教材文に出てくる
言葉を取り上げ、その言葉を使って百字程
度のお話をつくるという学習です。フィク
ションであろうとなかろうとかまいませ
んに紹介するのは、「少年の日の思い出」
に出てくる「色あせる」「身にしみる」とい
う言葉を使って、子どもが書いたものです。

「アルバムなどが入っている段ボ
ー
ルの中から、色あせた一冊の本が出て
きた。昔、おばあちゃんからもらった
ものだ。その本をギュッと抱きしめ
ると、温かさが身にしみた。」

子どもたちは辞書で調べ、用例を参考に
して、文章を書いていきます。書いた後は、



ハーサルをさせます。これにより、聞き手
を意識した発表ができるようになります。
声の大きさや間の取り方などの技能面はも
ちろん、聞き手にとってわかりやすい言葉
で話しているか、聞き取りやすい順番で話
しているかなど、内容面についても考えさ
せるとよいでしょう。また、聞き手側には、
「こんなことに気をつけて聞くように」と
いう「聞く観点」を示すことも大事です。

■「聞き取りメモシート」

「聞く力」をつけさせるために、私は短
いお話をし、子どもたちにメモを取らせる
という学習をすることがあります。そのと
きには、聞き取りメモシート（下参照）を
使用します。このシートは、縦書きでも横
書きでも、図を書いても自由。子どもたち

聞き取りメモ	年 組 番 ()
月 日 曜 日	
メモ	
まとめ	

▲聞き取りメモシート

には「メモを取るときは、聞いたままをだ
らだと文章で書いてはいけませんよ」と
伝えます。お話を聞き終わったら、「まと
めの欄に、お話の内容を一文でまとめな
さい」と指示し、要約をさせたりします。十
分もあればできます。
要約させた後は、子どもたちが書いた
シートをコピーし、教えたいことに焦点を
絞って講評するとよいでしょう。
聞いて要約するというだけでなく、聞い
てそのことに対して意見を書くなど、い
ろんな学習をすることが出来ます。

互いの文章を読み合うことで、自分が取り
上げなかった言葉の意味や使い方を知ること
ができます。この学習は、語彙の拡充に
もたいへん役立ちます。ぜひみなさんにも
取り組んでいただきたい学習です。

■「ウソ日記」

新出漢字を使って日記を書くという活動
で、内容は『はれときどきぶた』（矢玉四
郎／岩崎書店）のように、ウソでよいので

す。とにかく、時間内にどれだけ多くの新
出漢字を使えたかが鍵。多少は無理のある
話の展開もOKです。
「ウソを書きなさい」と言われて、最初
は驚いていた子どもたちも、今では、はり
きって書くようになりました。書き終わっ
た後に作品を読んで発表すると、聞き手は
新出漢字を頭で浮かべながら聞くようです。
「ウソ日記」を始めてから、漢字力もつい
たようで、まさに一石二鳥の学習です。

使った新出漢字をこの欄に改めて書き出す。
新出漢字を何個使えたか、個数を書く。

ウソ日記	氏名 ()
五月二十九日・雨	
7	個
鈴 声	今日は学校で大きなことがあった。昼休みのことだ。僕は教室にいた。そのとき、突然鈴声がなつた。とても近くで、それは空気を動揺させた。たんだんと、感染していく。たんだんと、恐怖が伝わっていく。たんだんと、怖くなった。そして、次の瞬間、教室のドアが開いた。男が入ってくる。男の姿はよく分からなかったが、その手に握られて、僕は壁に飛び込んだ。その瞬間、鈴がびんな種類なのか、鈴が何なのか、何も分からなかった。しかし、そのとき僕は、状況を把握した。その後、僕はよく分からない。五人が重傷を負い、自分を全めた。多数がけがをした。あのとき、教職員が来て、事柄は収拾された。男は永遠切りの被害者のようである。なやうな学校を襲ったのかは分からない。鈴声や非しびが甲かきしめ、ていたのは確かだ。用いた。

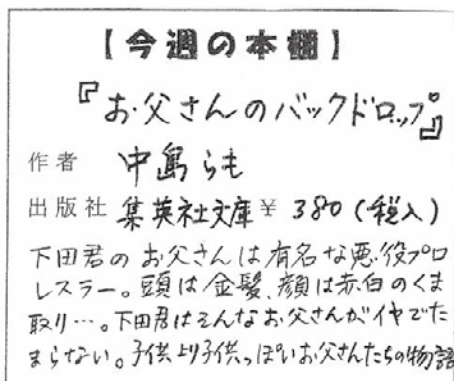
使った新出漢字に傍線をつける。……

読むこと

「読む力」をつけさせるために、やはり子どもたちには多くの本と出会わせたいと考えています。私が、日頃どのような工夫をして子どもたちと本とを出会わせているかをご紹介します。

■本の紹介をする

私は、月に二回ほど、「国語教室通信」というプリントを子どもたちに配布しているのですが、そこには必ず「今週の本棚」というコーナーを設けています（左参照）。



▲「今週の本棚」コーナー（「国語教室通信」より抜粋）

本は子どもたちとの対話を生み出してくれます。定期的に子どもたちへ本を紹介したいと決意して作ったコーナーです。このコーナーのおかげで、私は書店へ行くのが習慣になりました。教師が常にアンテナを張り、本に関する情報にふれていることは大事だと思います。

本の紹介といっても、毎回同じパターンでは印象に残りにくいので、あるときはあらすじを、あるときは作者を、あるときは主人公を……とアプローチのしかたを変えるようにしています。その作品に合った紹介のしかたを考えることで、教師自身のプレゼンテーションの力もつくような気がします。

本の紹介をする、必ず子どもたちは反応しますので、できればすぐに手に取って読めるよう、実物を用意しておくといでしょう。

■「朗読劇場」

この取り組みは、私の所属する勉強会のメンバーが考えたものです。いわゆる「読み聞かせ」のようなものですが、「読み聞かせ」と言ってしまうと、幼い感じがしますので、「朗読劇場」という中学生にふさわしいネーミングになっています。



なんとといっても「劇場」なので、読んでいる間に注意されたり、後で感想を聞かれたりしないのが人気のようです。ただ聞いているだけ。そういう時間があってもいいですね。私は「朗読劇場」の名にふさわしいように、カーテンを閉め、電気も黒板のところだけをつけて、朗読します。

本を全部読むことはほとんどありませんので、続きは自分で読んでくださいと言うと、たくさん子どもたちが本を借りにきます。ほんの少しの時間で実現できる「読書」の時間です。

連載を終えて

私が大村はま（※）という人物に出会ったのは二十歳のときでした。『教えるということ』という本です。そのときの衝撃は、今でも鮮明に覚えています。以来、現場の教師になっても大村はまの著書を読みあさり、講演があるといつては出かけ、全集を何度も読むことになりました。いつも大村はまの背中を追いかけていたと思います。けれど、実践を重ね、年齢を重ねても、大村はまは遠くなるばかり。とても追いつきません。こんな年齢になってもまだまだなんだなあと思っていたときに、「教師力講座」のお話がありました。こんな自分ができることがあるのだろうか？

当時、『国語教育相談室』を担当していた広報部のKさんは、私の教室で起こるさまざまな出来事を本当におもしろそうに聞いてくださいました。それで？ それで？ 書いてください。ととてもおもしろいですよ」「失敗をおもしろく語れるっていいですね」と妙な励ましをしてくださったので

した。

Kさんに背中を押してもらった私は、数々の失敗から生まれた言葉と、大村はまの言葉を重ねて語ることから始めました。そして、七年。多くの方々にたくさんの方の励ましをいただいたおかげで続けることができました。感謝申し上げます。また、Kさんをはじめ広報部の皆様、いつも熱心に話を聞いてくださり、ありがとうございます。

連載第一回の文章を読み直して、このとき書いた、次の言葉が私の教室を貫く基本的な考え方だったと再認識しました。

生徒たちは「自分を伸ばしてくれる教師」を求めているのです。生徒自らが「〇〇したい」と思うように、まずは教師自身が楽しんでやりましょうよ。

私たちは、自分自身が楽しくなることを大事にしなければなりません。そして何より、子どもたちが「読みたい」「書きた

い」「話したい」「聞きたい」「考えた」と思える魅力的な教室を、実現しなければなりません。連載を終えるにあたって、再度、この言葉をみなさんにお伝えして終わります。

※大村はま（一九〇六―二〇〇五年）
国語教育研究家。東京女子大学卒業。実践の中から「大村単元学習」を生み出した。著書に『大村はま国語教室』『教えるということ』など。

かい・りえこ

福岡生まれ。東京都立赤坂中学校主任教諭。光村図書中学校「国語」編集委員。専門は国語科単元学習。著書に「子どもの情量」共著。光村教育図書、聞き手話し手を育てる（共著・東洋館出版社）など。



2

教えて！墨のこと

今回は、墨のメーカーである墨運堂・東京店（千葉県松戸市）に伺いました。墨運堂の本店は奈良県にあり、文化二年に創業、その歴史はなんと二百年以上です。東京店店長の松井昭光さんにお話をお聞きしました。



▲液体墨

▲固形墨

固形墨は桐箱に入れて売られていることが多い。

1 墨の歴史

墨のことって、意外と何も知らないなあ。



どんなお話が聞けるのか、楽しみだね。



イラスト：北村ケンジ

——そもそも墨はいつ頃できたのか、教えてください。

中学生のみなさんが「墨」というと、思い浮かべるのは、液体の墨でしょうか。

——はい。学校の授業では墨液を使うことが多いので……。

中学校の書写の授業では、手軽に使える「液体墨」（墨液）を使うことが多いですね。墨には、ご存じのとおり、硯で磨って使う「固形墨」もあります。

墨は、固形墨から始まり、中国から伝わりました。その歴史は古く、漢の時代

（紀元前二〇六―二一〇年）にさかのぼります。日本では、『日本書紀』に「推古天皇十八年三月、高麗王、僧曇徴を貢上す。曇徴よく紙墨をつくる」とあり、実際は推古天皇の時代より少し前に、墨が日本へ伝えられたと考えられています。そのときに都があった奈良を中心に、墨は徐々に全国へ広まってきました。ですから、現在でも墨作りをしているメーカーは、奈良に多いんですよ。

このように、固形墨には二千年以上の長い歴史があります。しかし、液体墨ができたのは、昭和三十六年。ごく最近なんです。

——それは意外ですね。なぜ液体墨は生まれたのですか。

やはり、もっと手軽に墨を使いたいという声が多かったのでしょう。昭和二十五年に水で溶かして使うペースト状の「練墨」ができ、その後に液体墨が開発されました。当時は、固形墨の代用品という位置づけでしたが、今では固形墨よりも使う人が多くなっています。



▲墨磨機
機械に固形墨をはさみ、水を入れて電源を入れると、自動的に墨を磨ってくれる。

とができる。また、粒子が細かいため、見た目は艶つぽく優雅になることが多いですね。

——いっぽう液体墨は、一定の濃度で製造されているので、見た目がやや平板になります。粒子が粗いため、墨を黒く、力強く見せたいときにいい。豪快さを出すことができます。

作品によって固形墨と液体墨を使い分ける書家の先生もいます。また、大きな作品を書くときは、大量に墨を磨るのが大変なので、液体墨を使うことが多いようです。しかし、固形墨を使って大きな作品を書きたいという人もいますので、自動で墨を磨る機械があるんですよ（右写真）。高校の書道部などでも使われているようです。

——固形墨と液体墨で、扱い方に違いはありますか。



▲墨の磨り方

固形墨には、「墨は成長する」という言葉があり、年数を経ることで、書き味がよくなっていくのが特徴です。二十〜五十年経った固形墨を「古墨」と呼び、ものによっては、たいへん価値があります。

固形墨を硯で磨るときは、左図のように垂直にせず少し斜めにし、時々、裏返して磨り口がV字の形になるようにするとよいと思います。力を入れすぎないようにすることも大事です。使い終わったら、反故紙などできれいに拭き取り、桐箱に入れ、直射日光が当たらない涼しい場所ので保管しましょう。よい条件で保管すれば、何十年と使い続けることができますので、丁寧に扱いたいものです。

いっぽう、液体墨は製造されてから、ゆっくりと腐敗が始まります。なぜか「墨



▲固形墨と液体墨の違いについて説明する松井さん。

2 固形墨と液体墨の違い

——固形墨と液体墨では、書き味にどのような違いがあるのですか。

固形墨は自分で磨るため、濃淡をつけたり、いろいろな表情を出したりするこ



1 煤を採取する (採煙)

素焼きの器に植物性油を入れ、灯芯を燃やし、蓋に付いた煤を採取する。



2 煤と膠を 混ぜて練る

膠を長時間煮て液体にし、液状になった膠と煤を「混和機」という機械にかけて練り合わせる。その後、混和機から取り出し、さらに職人が手で練って、香料を加える。



3 型に入れる

墨を入れる木型は四つほどのパーツに分かれている。そのパーツを組んで、練った墨を型に入れる。繊細で緻密な作業のため、職人の腕が試される。その後、プレスし、墨の形にする。



4 乾燥させる

木型から取り出した墨は、1日目は水分の多い木灰に埋め、2日目以降は少しずつ水分の少ない木灰に埋めてゆっくりと乾燥させる。灰の乾燥が終わったら、無風の室内で1〜2か月乾燥させる。



5 彩色・包装

乾燥したら水洗いし、墨の表面を磨く。再び乾燥させ、その後、金粉・銀粉などで一つずつ彩色していく。紙で包み箱に入れて完成。小さな墨でも型入れから包装まで最低3か月はかかる。

墨ができるまで 〜固形墨編〜

今回は固形墨ができるまでの主な工程をご紹介します。
墨運堂では、墨の製造期間中に工場見学を受け付けています(要予約)。
実際に墨づくりの現場を見ることができ、さらに墨への理解が深まることでしょう。



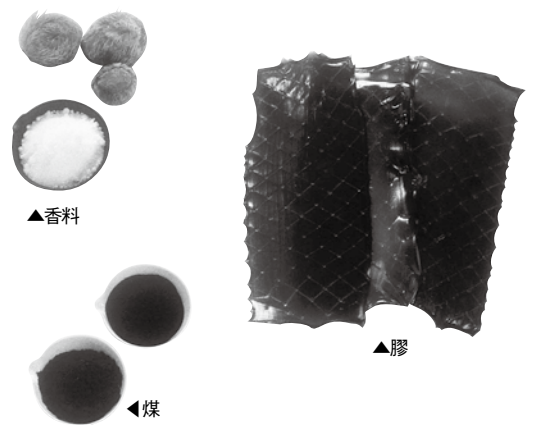
3 墨の原料と作り方

——固形墨と液体墨の原料は同じなのですが。

基本的には同じで、原料は、煤・膠・香料です。液体墨の場合、それに水が加わり、防腐剤が入ることがあります。膠でなく合成樹脂を使うこともあります。煤には、油煙・松煙・工業煙の三種類があり、油煙は、菜種油など植物性の油を燃やして採取します。松煙は、松の木を燃やして採取するのですが、今では自然保護の観点から行われていません。工業煙は、軽油などを燃やして採取します。

——膠というのは、どのようなものですか。

動物の骨や皮などを、水を加えて煮沸してつくる、コラーゲンを含むゼラチンを主成分とした動物性タンパク質の一種です。膠は、墨作りに欠かせない原料ですが、非常に強い臭気があるので、墨を作るときは、必ず香料を加えます。私たちは龍脳という天然香料や人口香料を使うことが多いですね。固形墨を磨ったときに感じるいい香りは、香料によるものです。



——墨は、どのようにして作られるのですか。

煤を採取する「採煙」に始まり、さまざまな工程を経て作られます(P23参照)。特に、墨を練ったり、型に入れたりするのは、経験が積んだ職人にしかできない、緻密な作業です。

また、膠が動物性タンパク質で腐敗しやすいため、墨は暑い時期に作ることができません。ですから、毎年十月から翌年の四月に製造しています。

墨運堂本社には「墨の資料館」があり、墨の製造期間中は墨づくりの工程の展示を見たり、墨の型入れを見学したりすることが出来ます。ぜひ予約してお越しください。

——ぜひ見学に伺いたいです。今日はありがとうございました！



ぼくうんどう
墨運堂

本社 奈良県奈良市六条 1-5-35
TEL: 0742-52-0310
東京店 松戸市小金きよしヶ丘 4-10-2
TEL: 047-347-5100
URL: www.boku-undo.co.jp



さんぱつやきょうこそん
長谷川義史 作

定価：本体1,200円＋税
ISBN978-4-89528-687-9

世界を舞台にした、中学生リョウたちの
せつなくもきらめく青春物語



リョウ&ナオ
川端裕人 著

定価：本体1,600円＋税
ISBN978-4-89528-689-3

好評発売中！
飛ぶ教室の本

飛ぶ教室

「飛ぶ教室」は、子どもの本と子どもの文化を掘り下げる総合誌を旨として、昭和56年に発刊した児童文学雑誌です。作家の個性があふれる童話や短編、絵本の書きおろし作品のほか、作家や作品の魅力に迫るインタビューや座談会など、読みごたえある企画満載です。

定価：本体1,000円＋税
年4回発行
(1・4・7・10月の25日)

好評
発売中



第38号
特集
すばらしき「3」の世界！

平成27年度用教科書 訂正のお知らせ

平成27年度用教科書では、平成26年度用教科書から以下の箇所を訂正しております。校内の先生方でご確認のうえ、ご指導の際には、十分ご留意くださいますよう、お願いいたします。

■国語

学年	ページ	行	26年度	27年度
3	93	下2	りゅうず（「扇面流図屏風」のルビ）	ながしず（「扇面流図屏風」のルビ）

平成27年度「言語教育振興財団」研究助成金一般公募のお知らせ

一般財団法人「言語教育振興財団」では、小・中・高等学校、大学、教育研究団体等を対象とし、今後の情報化・国際化の進展を踏まえ、言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

助成内容	①言語教育の内容・方法に関するもの（教育内容・方法部門） ②言語教育教材の質的向上に関するもの（教材部門） ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの（教育機器部門）
研究期間	平成27年4月～28年3月（原則1年間）
応募資格	言語教育（国語、英語、日本語等）に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小・中・高等学校・大学・教育研究団体（学校の学年・教科単位を含む）
助成件数及び金額	助成件数は50件まで。 助成金額は1件につき20万～40万円 （団体の場合は40万円まで、個人の場合は30万円まで）
応募方法・締め切り	・所定の申請用紙に記入の上、研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、平成26年12月22日（月）必着で、当財団事務局に郵送。 ・申請用紙を希望される方は、返信用封筒を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。 ・この応募要項については、都道府県教育委員会等推薦の場合も同様に扱います。
決定・発表	当財団「選考委員会」にて選考を行い、選考結果は平成27年2月末までに文書にて通知します。平成27年3月末に銀行振り込みで交付します。
問い合わせ先	一般財団法人言語教育振興財団 事務局 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL 03-3493-7340 FAX 03-3493-2174 E-mail:gengo-k@star.ocn.ne.jp